

No Significant Change in Trend of Hospitalizations for Acute Coronary Syndrome in Japan before and after Introduction of Heated Tobacco Products

論文要旨（日本語）

○タバコメーカーは、これまでの紙巻タバコと比較し、人体への危害の少ない（ハーム・リダクション）タバコとして、加熱式タバコを開発・宣伝・販売しているが、根拠はない。加熱式タバコは世界で初めて我が国で発売（2015年）され、我が国のマーケットシェア（2015年0.01%、2017年7%、2019年は25%）は世界1である。

○虚血性心疾患（IHD）は急性冠症候群（ACS：急性心筋梗塞AMI＋不安定狭心症UAP）と慢性IHDに分類される。IHDの中で、ACSは喫煙の法的規制により直後から減少し、喫煙との密接な関連が確立されている。そのため、加熱式タバコのハーム・リダクション効果の有無を明らかにするために、紙巻タバコから加熱式タバコへのスイッチがACS・慢性IHDを減少させるかを検討することは国際的にも重要である。

○最近、van der Plasらは（Front Public Health. 2022; 10:909459.）我が国のIHD発症数のトレンドを2013年度-2019年度まで検討し2017年前後でIHD入院数が増大から減少に転じたことを報告、この減少は加熱式タバコの普及と関連し、加熱式タバコのハーム・リダクション効果を示唆するとした。しかし彼らはIHDのみを検討し、最も重要なACSについては検討していない。

○そこで、我々はJROAD-DPCデータを利用して、2013年度-2019年度までの我が国の連続372病院における1,205,876のACS・AMI・UAPおよび慢性IHDの患者データを解析し、以下の結果を見出した。

結果・討論・結語

1. 禁煙効果の有無を最もよく反映するACS・AMI・UAPの入院患者数のトレンドは2017年前後で有意な変化はなかった。
2. 一方、慢性IHD（主に待機的冠動脈造影または待機的経皮的冠動脈インターベンションPCIによる入院）においては、2017年前後でvan der Plasらと同様に入院数のトレンドが有意な増大から有意な減少へと変化した。厚労省は、2018年4月に待機的PCIに対する新しいガイドラインを導入、この政策変更により、待機的PCIはそれ以前の有意な増加から有意な減少に転じたことをすでに我々は報告した（JACC Asia. 2023; 3:312）。従って、van der Plasらの2017年前後のIHDトレンドの増加から減少への変化は加熱式タバコの導入というよりも、待機的PCIのガイドラインの変更によると思われる。2019年度までのIHDトレンドの解析は加熱式タバコのハーム・リダクション効果をサポートしない。

*： JROAD-DPC：日本循環器学会によるDPCデータを用いた循環器疾患診療実態調査
DPC: 厚労省の入院患者診断群分類